



住民主体の農文化システム評価 ～日本の事例から学ぶ農村開発・地域振興～

濱野 強

本講演は、平成24年度～26年度農林水産政策科学研究委託事業「農文化システムの総合的評価ツールの開発と地域比較に関する研究」で得られた成果の一部である。

はじめに



<http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/seibi/tanada/tanada.html>

起源：江戸時代以前

特徴：砂鉄採取時の窪地を棚田に活用

起源：戦国時代～江戸時代

特徴：棚田を形成し景観との調和を継承

- 類似している農村地域に見えるが、歴史的な経緯や形成されてきた文化は異なる。
- 特徴を理解して今後の取り組みに活用していくには？

特徴を理解し、伝えるには？

- そこに住まう人にはあたりまえの環境
 - 比較に基づき「強み」と「弱み」を説明する
- 眼で見て分かる
 - 定量解析・マップの作成
- 多様な特徴をストーリーとして理解
 - 人々の生活を幅広く包含する

見えない資源・環境を形に

毎 日 新 聞

毎 日 新 聞

血圧上げる 人間関係

「信頼」低ければ高めに

住民同士の信頼感が低い地域ほど高血圧を誘発する？ そんな結果を、島根大疾病予防研究拠点の濱野強専任講師らの研究グループが突き止めた。ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）と呼ばれる地域社会の人間関係から血圧に与える影響にアプローチしたもので、濱野講師によるとこの手の研究成果は世界でも初めて。米国の学術誌「アメリカンジャーナルオブハイパ―テンション」電子版に掲載された。

【細谷拓海】

調査は08～09年に行（歳）を、居住地域の郵便、雲南、出雲両市に便番号ごとに30地区に住み、特定検診を受け分け、血圧について調査した住民を対象に実施した。インタビュー形式

た。インタビュー形式 その中で、地域内で有効回答を得た333人（平均年齢69・7歳）は、あなたが利用すると思

島根大研究グループが解明

うか」という問いに「はい」と答える人の割合と血圧の関係について調べた。投薬や喫煙など12項目の影響を除いて分析したところ、「はい」と答えた人の割合が1％上がると最大血圧は22・9mmHg高くなる傾向があった。調査では、糖尿病の投薬治療▽喫煙習慣▽肥満▽高齢——によって血圧が上がる結果も出ていたが、人間関係も高血圧に影響していることも明らかとなった。ソーシャル・キャピタルに詳しい静岡県立大経営情報学部の藤澤由和准教授（医療政策学）は「これまで高血圧対策の主眼は、個々の生活習慣の改善を通して行うものが主流だった。今後は地域内の人間関係を深めるなど居住地域ごとの対策も加味することで、より効果的な予防が期待できるのではないかと今回の研究成果を評価している。

憂うつ解消には信頼感

島根大・濱野講師ら 相談体制より重視

島根大疾病予防研究拠点の濱野強専任講師（社会疫学）らは、このほど、雲南市での健康調査を通じて、相談相手の有無と他人への信頼感が、憂うつな気分につながる関係があるかを調べた結果を英国の学術雑誌電子版で発表

体制があるか、の2点を分析。「他人を信頼し、相談相手もいる」という人を1とする。相談相手はいるが、他人は信頼できない人は2・21倍、相談相手がなく、他人も信頼できない人は2・07倍、相談相手がいなくても、他人を信頼できる人は1・03倍、憂うつになりやすいという結果が出た。相談相手よりも、信頼感の有無が憂うつな気分に関係していることが明らかとなった。

【細谷拓海】

毎日新聞、2010年6月9日。

毎日新聞、2011年4月6日。

「地域環境 健康に影響」



え・よこたしぎ

島根大の濱野専任講師ら スウェーデン430万人調査

同大疾病予防研究センターの研究者らによる共
ロジックセンターの同研究。同国の国勢調
濱野強・専任講師(社 査を活用し、人口の5
会疫学)とスウェーデン 割増に当たる35歳から 跡調査した。

近所にファストフード店がある人は生活習慣病に注意？ 島根大などの研究グループはスウェーデン国民の半数を対象にした調査で、近所にファストフード店がある人は、ない人に比べて脳血管疾患のリスクが2〜3%高まるという結果をまとめた。実際にファストフードを食べたかどうかは把握していないが、グループは「居住地域の環境が健康に影響している可能性がある」と分析。研究成果は米国のオンライン科学誌「プロセス」に掲載された。

【金志尚】

その結果、4万2270人がこの間に脳血管疾患を患った(死亡を含む)。これらの人の生活環境を調べるにファストフード店がある人は、ない人に比べてリスクが男性は2%、女性は3%高まる。ことが判明した。また、パブやバーといった店舗があった場合は脳血管疾患との関連は確認できなかったという。

ファストフードは短時間で食事ができる一方、脂肪の多い高カロリーな場合が多い。食べ過ぎは健康に悪影響を与えるとされ、04年に公開された米国のドキュメンタリー映画「スーパーサイズ・ミー」では、監督が30日間ハンバーガーなどを食べ続け、肝機能の低下など健康状態が悪化した。

濱野さんは「研究は「研究はやすい」と指摘している。一方、食の専門家を認定する「日本フードアナリスト協会」(東京都)の横井裕之理事長は「統計による調査だが、当然の結果と言えないか。ファストフード店は家でゆっくり食事できない人が行く傾向が強い。栄養のバランスが偏っており、脂質が多い。過度に摂取すると成人病になりやす」と指摘している。

近所にファストフード店：脳血管疾患2〜3%増

私たちが伝える
メッセージは、
地域の人にとって
どれほど有効で
あるのか？



地域での生活を
ストーリーとして
理解し、考えて
いく必要がある

本日の話題

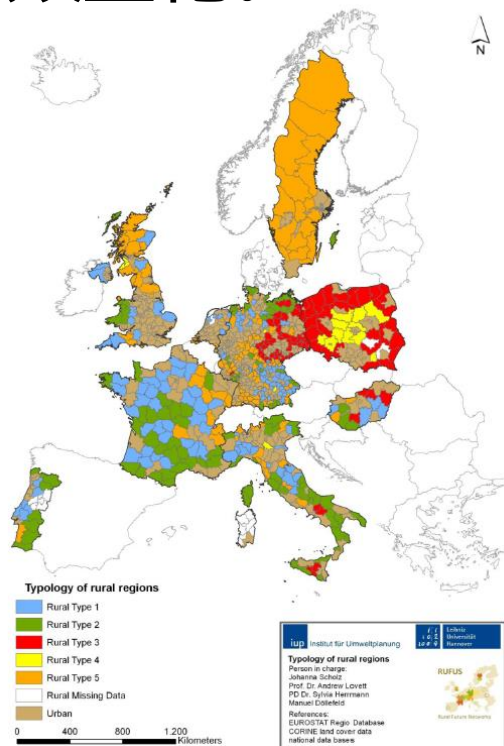
1. 地域の強みと弱みを明らかにするには
 - 既存の統計情報を活用した試み
2. 今後の取り組みのためのストーリーを作成するには
 - 地域調査で得たテキスト情報を「見える化」する試み
3. 課題と可能性
 - 国際開発領域においてどのように活用するか

強みと弱みを理解する

- 評価の位置づけ
 - 今後の活動を進めていくための意識の啓発・体制整備。
- 評価の仕組み
 - （研究者主導ではなく）地域住民が参画し、地域の特徴を評価することを通して「強み」「弱み」を理解することが可能なプロセス。
 - 広く一般での活用が可能となるよう簡便で、比較可能な方法。

ストーリー性を備える

- Rural Future Networks (RUFUS)
 - 農村地域が有する多様な資源や特徴の評価と類型化。



- 農業従事者割合
- 宿泊施設数
- Natura2000面積割合
- ボトムアップ型農業
活性組織数
- 失業率
- GDP
- 人口増加率
- 大卒者割合等

RURAL TYPE 2

TYPE2 is represented by regions with medium socio-economic success. The regions are characterised by a low amount of immigration, a GDP per inhabitant that equals the average of all analysed regions and a medium number of unemployed persons.

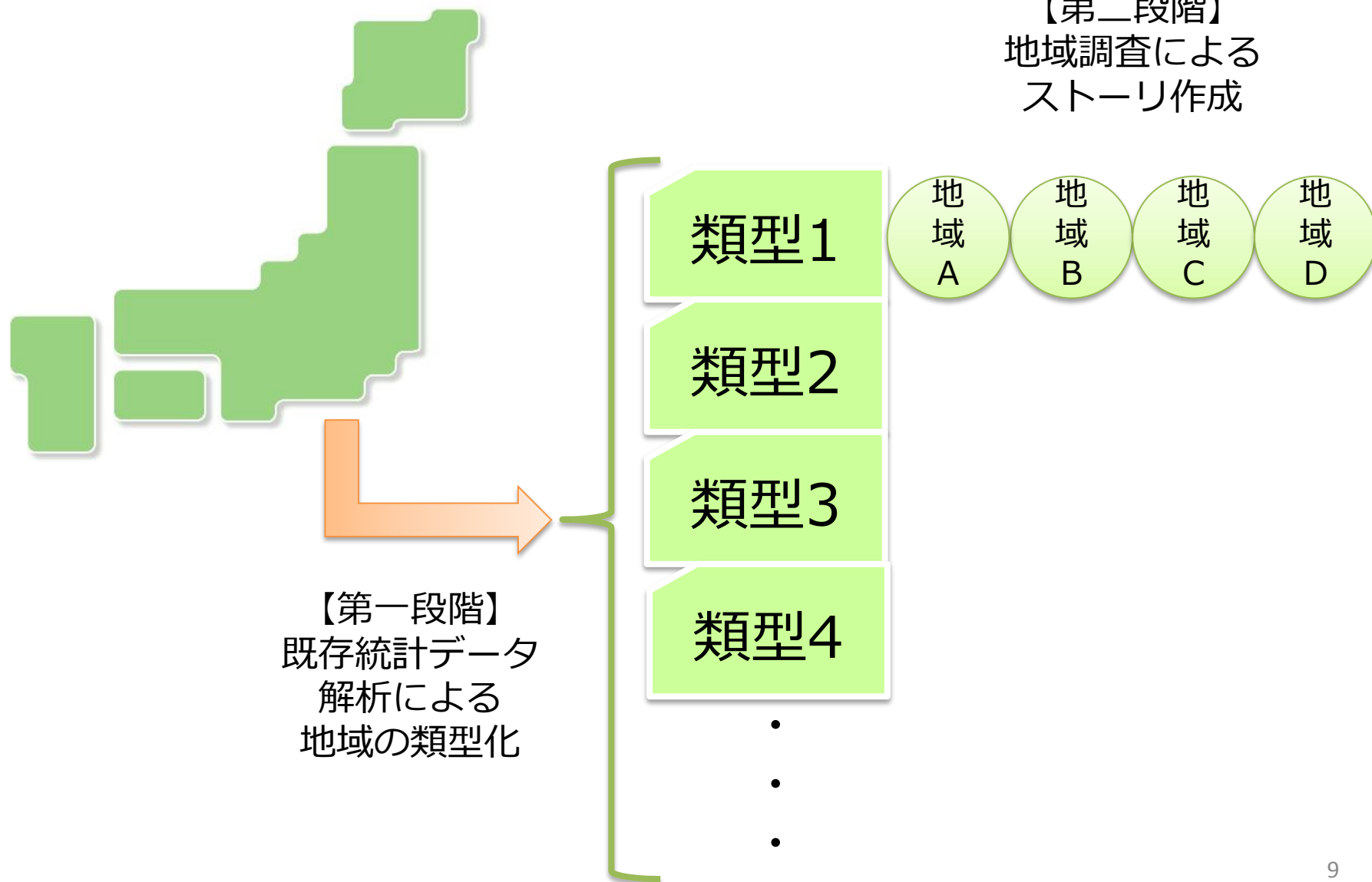
These regions are characterised by high importance of tourism. High values of Hotel accommodations and campsites represent this importance. The high importance of tourism is accompanied by a high value of Natura 2000 which is represented by percentage of area covered by Natura 2000.

TYPE2 of RUFUS typology is characterized by the high importance of agricultural and service sector. The importance is evident through the share of employees and economic performance in the primary and tertiary sector in figures. Especially the share of GDP per inhabitant generated in the service sector is evidently high.

short description:
medium economic successful, high capital in tourism and nature, high importance of agriculture and service sector

定量的・定性的な2段階評価

【第二段階】
地域調査による
ストーリー作成



既存統計（農林業センサス）の活用

分野	評価項目
集落構成	農業集落数，農業従事者・農業就業人口・基幹的農業従事者の平均年齢
運営活動	寄り合い回数，寄り合い議題（農業生産，集落行事の計画・推進，福祉・厚生，共有財産・共用施設の管理，農道・用水路管理等，環境美化・自然環境保全），実行組合の有無
生産関連活動	生産活動全般，農産物加工，貸農園・体験農園等，観光農園，農家民宿，農家レストラン，海外への輸出，その他
地域資源保全	地域資源の保全（農業用用水路，農地，森林，河川）
農業・農法	農薬の低減，化学肥料の低減，堆肥による土づくり

分析

	1	2	3	4	5	6
寄り合い議題_環境美化・自然環境保全	.740					
寄り合い議題_集落行事の計画・推進	.728					
寄り合い議題_共有財産・共有施設管理	.683					
寄り合い議題_福祉・厚生	.663					
寄り合い_回数	.568					
年齢_農業就業人口		.968				
年齢_基幹的農業従事者		.913				
年齢_農業従事者		.499				
化学肥料の使用低減			.954			
農薬の使用低減			.910			
堆肥による土づくり			.564			
農地保全				.597		
河川保全				.590		
用水路保全				.580		
森林保全				.532		
寄り合い議題_農道・農業用用水路管理	.427			.444	.431	
寄り合い議題_農業生産					.618	
実行組合					.557	
観光農園						.485
直接販売						.475
体験農園						.469

農業集落活性度

高齢化

環境保全型農業

地域資源保護

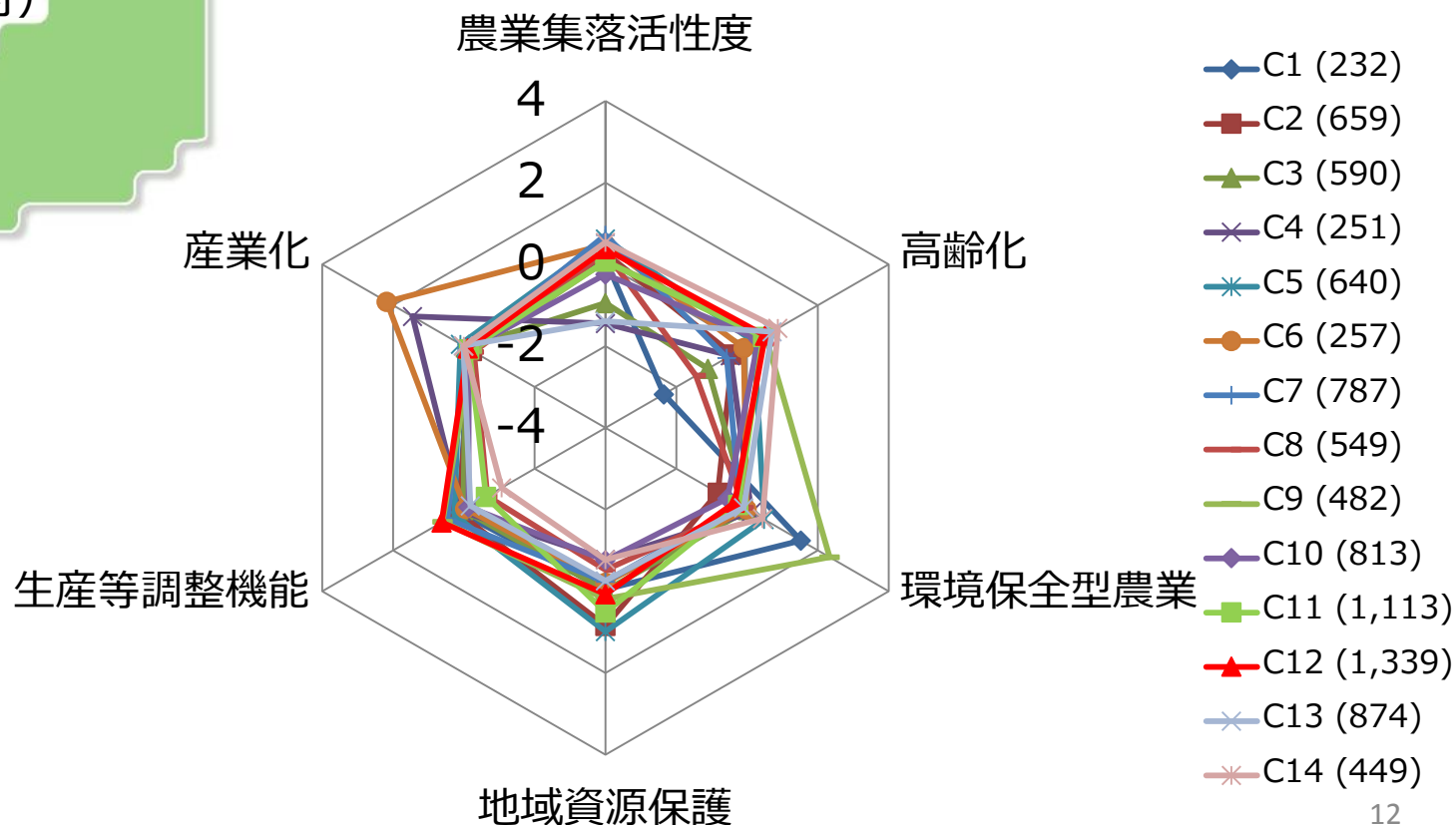
生産等調整機能

産業化

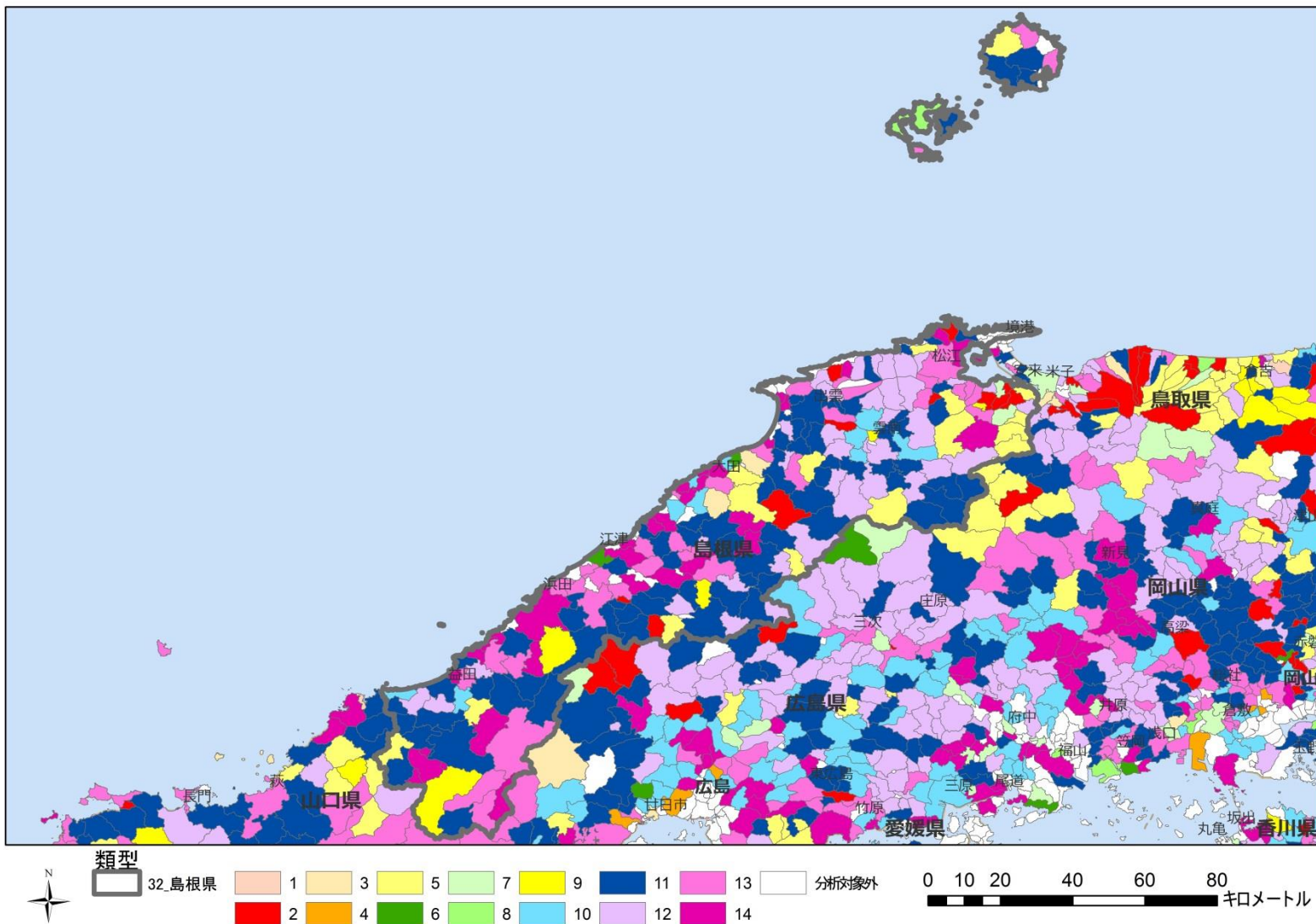
類型化の実施：第一段階の評価

- 旧市町村単位で解析
(9031市町村)

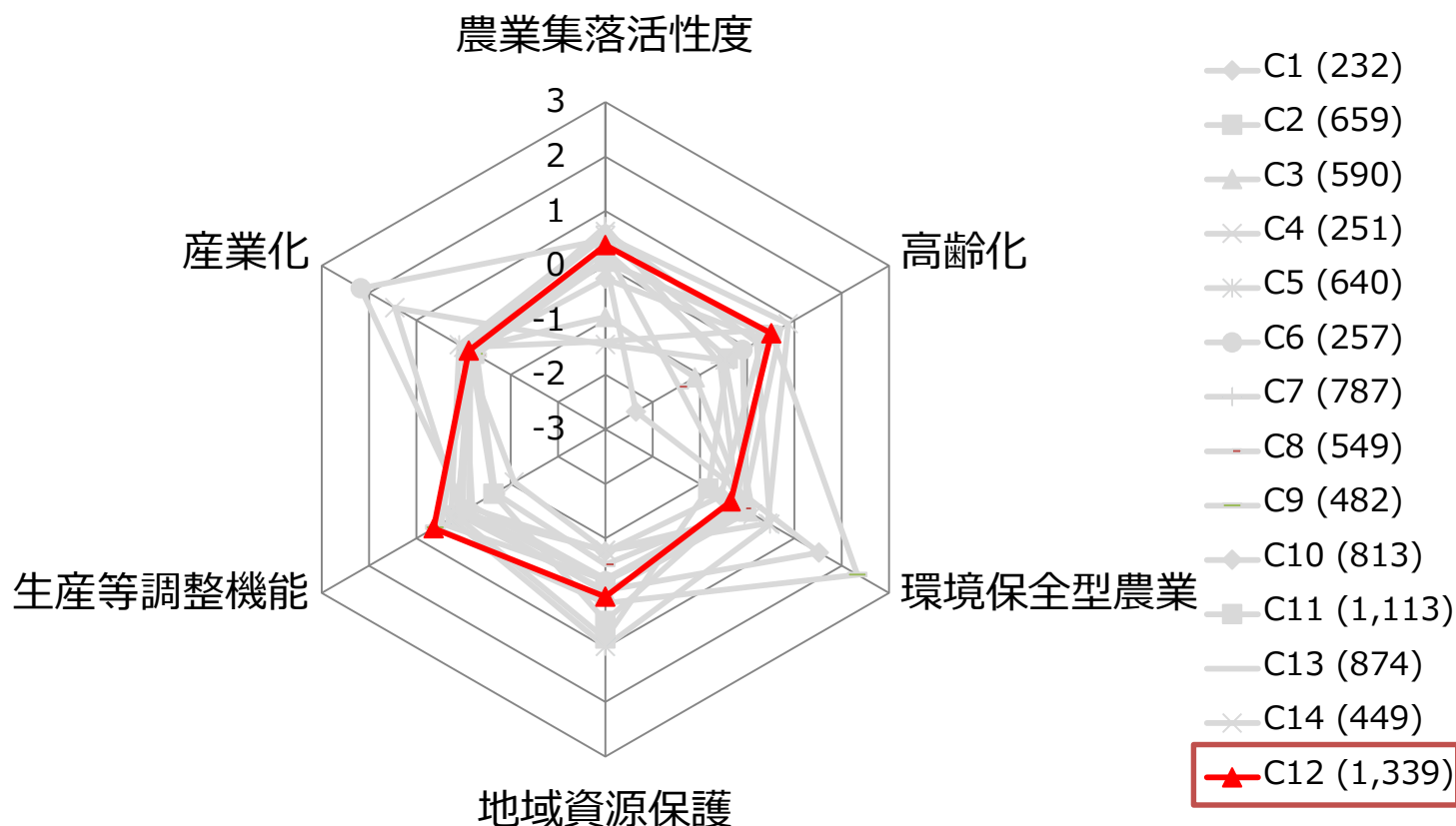
- 2010年農林業センサスを活用(27項目)して、地域の類型化を実施。



類型化の実施（例：中国地方）



「強み」と「弱み」の理解

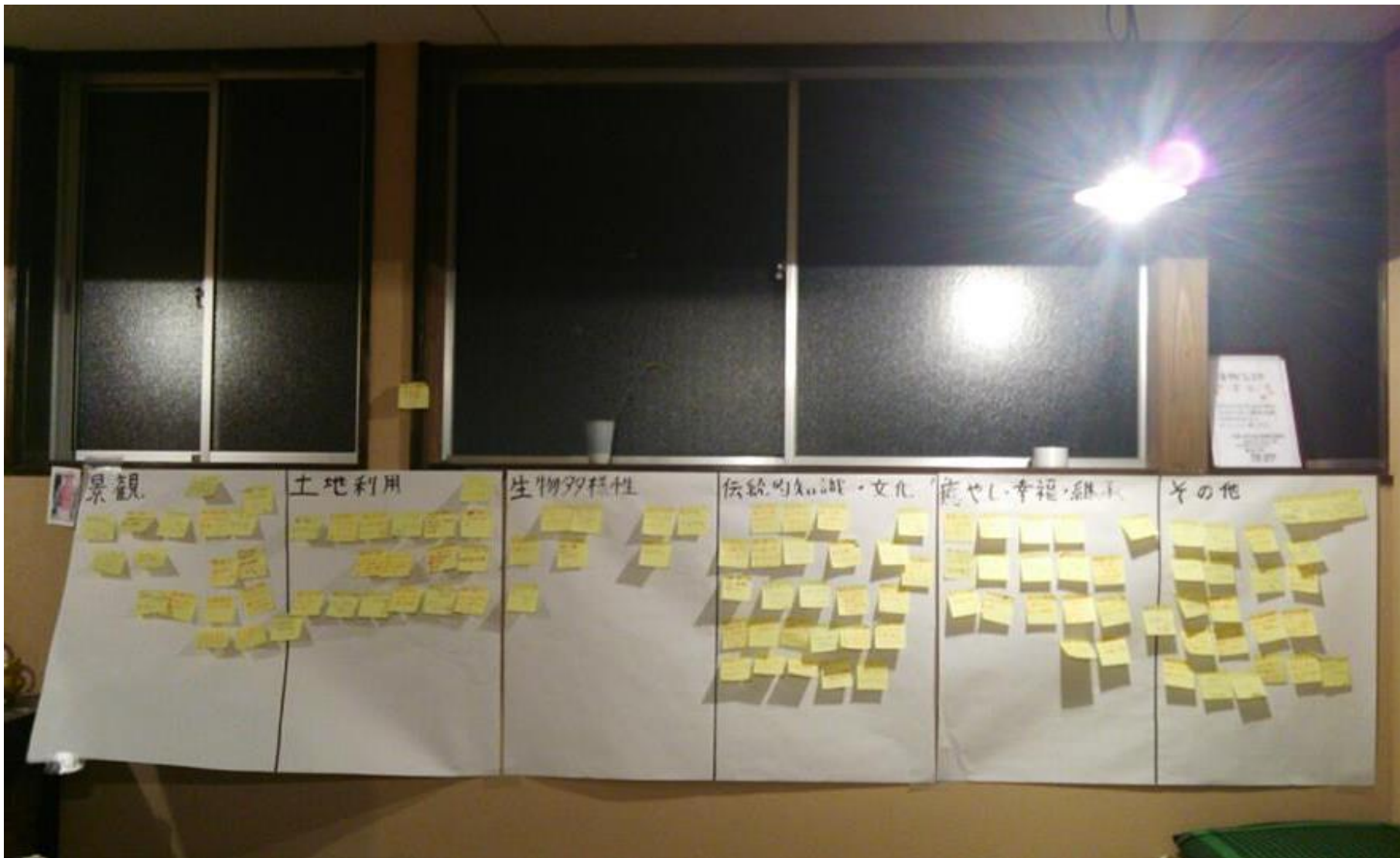


農業集落活性度や生産等調整機能の因子得点がプラスの値を示している一方、産業化の因子得点がマイナスの値であることから、伝統的な農文化を有しているもののそれらを活用した取り組みに至っていないことが想定。

小括

- 既存の統計情報を活用することにより、地域の強みと弱みの理解につながる。
- ただし、必要となる項目や分析単位は、必ずしも一致するとは限らない。
- 全体を踏まえた上で、さらに詳細な調査が必要。

地域調査の実施

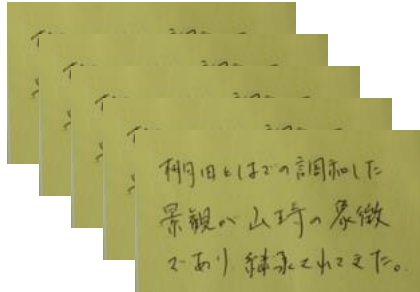


<http://khc.sourceforge.net/>

<http://khc.sourceforge.net/>

Step 1: ラベル作成

Step 3: KH coderで解析

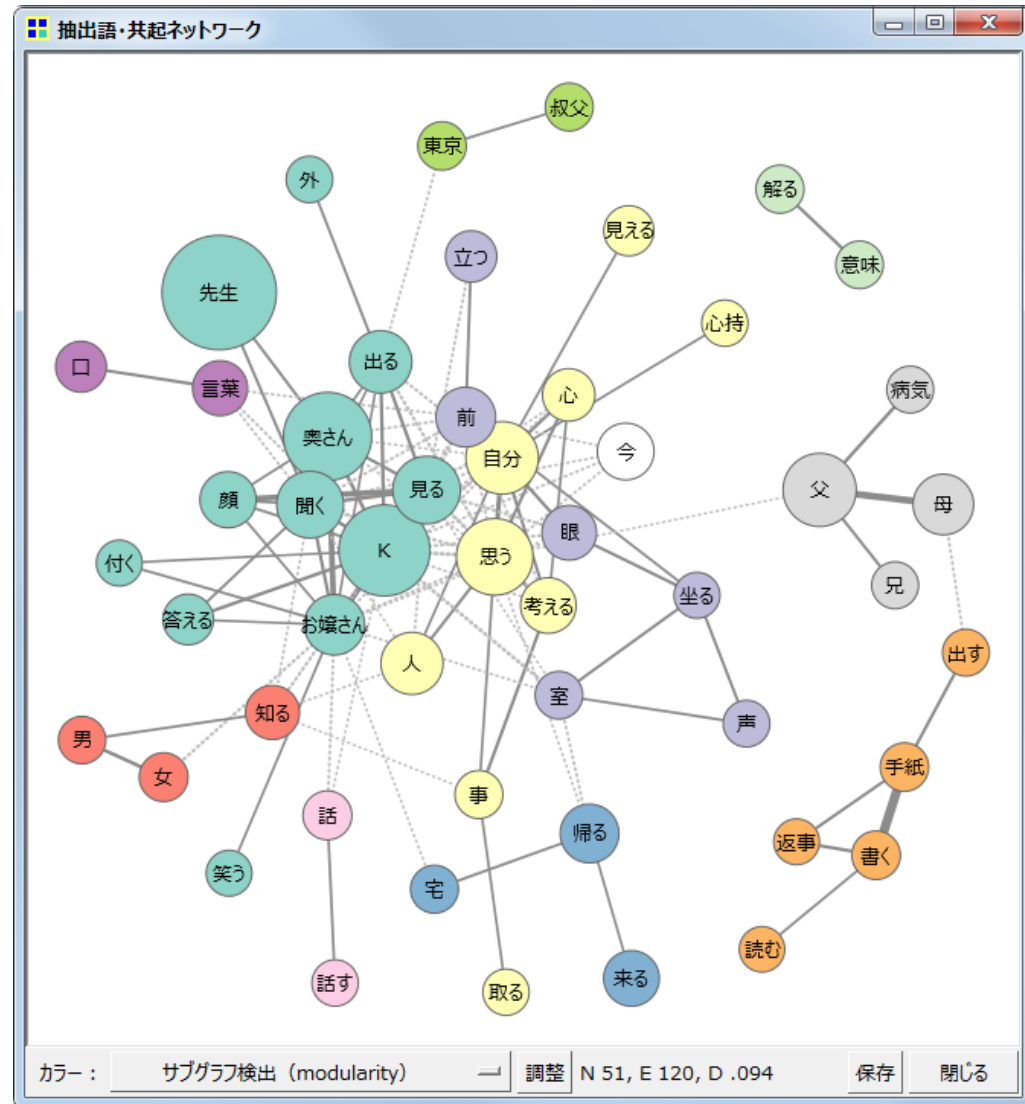


エクセル 入力

Step 2: エクセル入力

1	棚田とはでの調和した・・・
2	・・・
3	・・・
4	・・・
5	・・・
6	・・・
7	・・・

ソフトに
読み込み



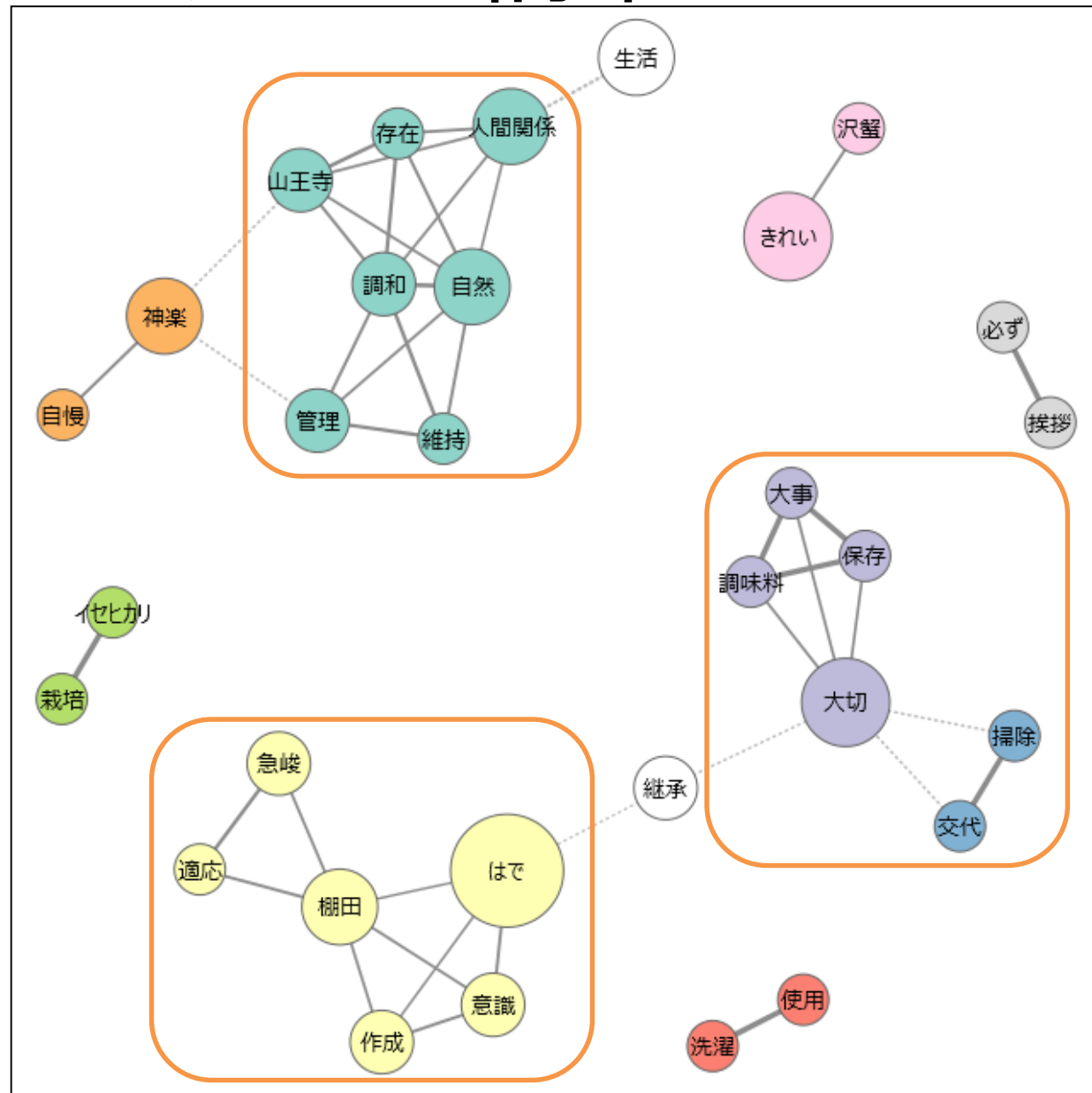
ストーリーを構築

何月何日におおの調和した
景観ハム琦の象徴
であり 継承とよこした。



- 61の農文化に関連するラベルが提起。

- 生物：12
- 文化・歴史・祭礼：16
- 地域資源：2
- 環境：5
- 人間関係：3
- 農林業：10
- 景観：10
- その他：3



アクションプラン

【シナリオ】

<特色：現状評価>

- 急峻な地形に棚田が広がり、「はで（木の枠組みに稲束をかけ天日で乾燥させる昔ながらの技術）」と景観の調和が特徴である。また、降水が限られた地区であることから、神社の神事等が継承され、保存食の文化も発達。

<アクションプラン>

- 「棚田と景観を意識した農業」が農文化の基礎であることから、棚田米のブランド化、棚田オーナー制度は、有益な方策と考えられる。合わせて農業に関連した祭礼・食文化を継承していく意識がうかがえたため、若い世代が地域を継承するスキル形成の場が維持・保全に不可欠。

小括

- 住民の生活を踏まえたストーリーの作成につながる。
- 地域調査を実施する際の期間（1週間）とコーディネーターの存在。
 - FASIDの研修
- 全体解析との関係を踏まえることにより、事例調査にとどまらない。

今後の課題

- 地域づくり（開発）は、
「人づくり・ 関係づくり・場づくり」
の連動
- そのためには、どのような方法で情報収集
すると良いか？

Pajek

<http://vlado.fmf.uni-lj.si/pub/networks/pajek/>

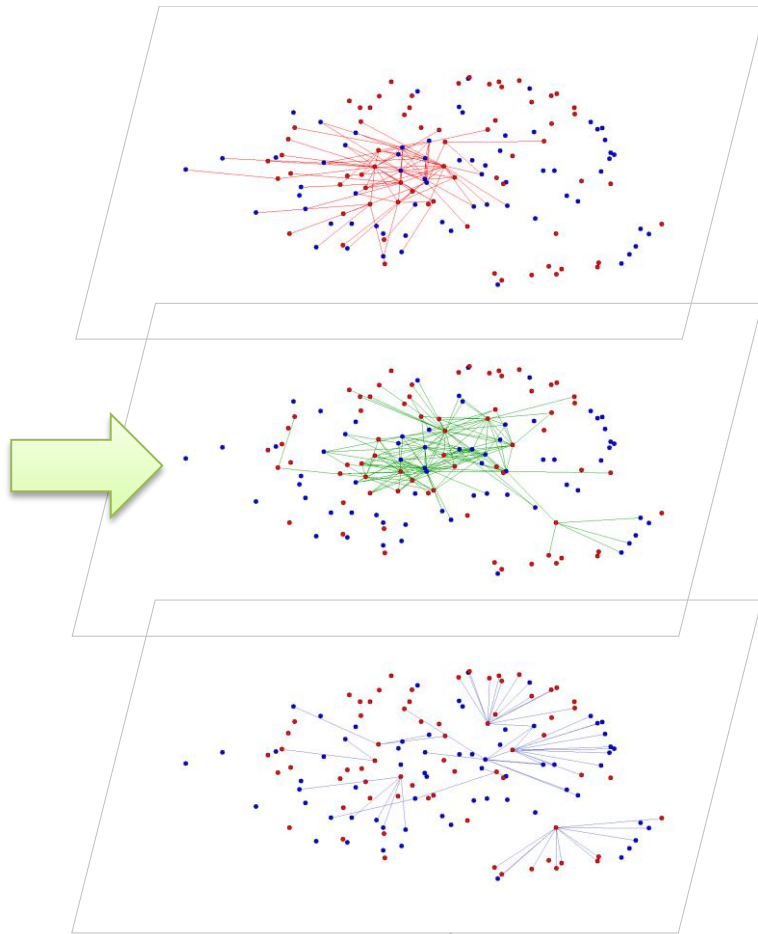


図1 A地区
地域イベントを中心とした
コミュニケーション形態



図2 B地区
仕事や農業を中心とした
コミュニケーション形態

雑談・
世間話

地域イベント・
役割・趣味

仕事

注) 調査期間が9月下旬～10月上旬であることから、その時期の状況を反映

関係性を把握する

島根太郎

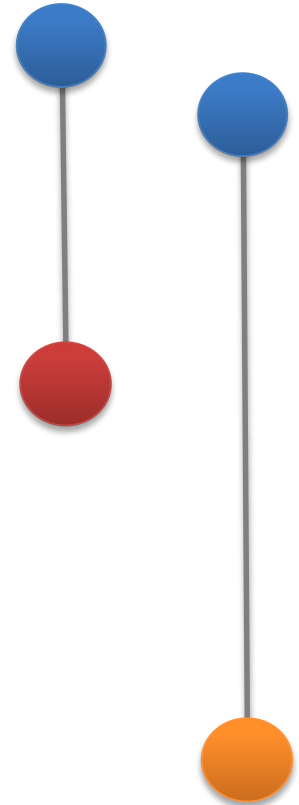
日時	相手の氏名	相手の年齢	相手の性別	会った場所	会った理由
7/17	島根 次郎	63歳	男性	集会場	地域サロン
7/19	島根 三郎	70歳	男性	小学校	祭り

島根次郎

日時	相手の氏名	相手の年齢	相手の性別	会った場所	会った理由
7/17	島根 太郎	65歳	男性	集会場	地域サロン

島根三郎

日時	相手の氏名	相手の年齢	相手の性別	会った場所	会った理由
7/19	島根 太郎	65歳	男性	小学校	祭り



地域の特徴を表してみる

	平均回数 (人/日)	密度 (%)
祭りを含む 場合	16.0人	51.6%
祭りを含ま ない場合	4.0人	13.1%

	平均回数 (人/日)	密度 (%)
農業等活動 を含む場合	11.2人	33.1%
農業等活動 を含まない 場合	5.8人	17.3%

注1) 平均回数：1人あたりの関係性・・・ 値が大きいほど住民が1日あたり多くの人とつながっている。

注2) 密度：集落内コミュニケーションの浸透度・・・ 値が大きいほど住民が地域内の多様な人とつながっている。

- 祭りを要件としたコミュニケーションを除くと、平均回数、及び密度が著しく低下。
- 住民同士で時間や場所を共有する機会が非常に重要。
- 農作業を要件（農機具の取り扱いや貸し借り・稲刈り、田、イノシシの被害の相談）としたコミュニケーションを除くと、平均回数、及び密度が著しく低下。
- 農業を共通の話題とした関係性が非常に重要。

おわりに

- 地域住民が生活を振り返ることで、地域資源の再発見や今後の活動の誘因となる。
- その際、地域の相対的な位置づけを理解する定量的な地域評価が参考となる。
- 本手法は、統計情報や地域人材を活用している点が特徴（＝誰でも気軽に）。今後は、ストーリーに基づく活動評価が必要。